

課の経営戦略シート

作成日	平成22年5月21日
部署	環境課
作成者	山崎 茂

課 名	環境課	課長氏名	山崎 茂	班の数	2
-----	-----	------	------	-----	---

1. 課を取り巻く環境と求められる方向性

課を取り巻く環境と求められる方向性	・栄町は豊かな自然環境に恵まれ、その健全で恵み豊かな環境を守り将来に引き継いでいく必要があります。しかしながら現在、地球規模による環境問題が進行しその課題に対する様々な取組みが求められています。私たちは日々の日常生活や企業における事業活動が地球環境に深く関わっていることを認識し、その環境保全に努めていくためにも行政・事業者・町民それぞれが環境に配慮した役割を果たし、協力しながら環境保全活動を推進していく必要があります。 ・一般廃棄物の総排出量が、手数料改正等の手段を講じたところ、家庭系ごみの資源化への取り組みが進みつつあり、可燃・不燃・粗大ごみが減少傾向に向っている反面、不適排出者が後を絶たず、各集積所に指定袋以外での排出や旧袋での排出、更に収集不可物の排出などがあり、収集に支障をきたす状況となっています。また、家庭系の燃やすごみの中に資源物(プラスチック、紙類等)の混入が相当量あることから、この資源物を有効に分別することで、財政負担及び環境負荷の軽減に繋げていく必要があります。
-------------------	--

2. 課の展望、目標、使命

課の展望 課が目指す町民生活や地域社会の姿	・町民が環境への負荷の低減を図る必要性を理解し、そのために必要な行動をとっている。 ・地域の環境を保全していくために、住民による監視体制の強化及び迅速な情報提供に努めている。 ・あき地や畜犬等に対して、管理者としての義務及びマナーをきちんと履行していることで、衛生環境の保全に努めている。				
課の目標 課の展望を数値で具体化したもの。 H22年度末の達成目標	指 標	H21 目標値	(H21)実 績見込値	H22 目標値	備 考 (指標の説明、目標値の根拠、データ取得方法 等)
	廃棄物の総排出量(t)	8,400	7,074	7,001	H17 - H21見込 - [(H17 - H21見込) - (H19 - H21見込) × 3年] × 人口変動率(H19からH21)
	住民等からの要望処理や情報に対する対応率	100%	80%	100%	要望処理や情報に対しては100%対応する。合併浄化槽の設置補助金については、平成21年度は要望に対して100%対応する。
	管理者としての履行率	100%	78%	100%	・狂犬病予防注射の接種率 平成21年度 64% ・あき地の除草率 平成21年度 70% ・町営墓地使用料の徴収率 平成21年度 100%
課の使命 上記展望を実現するために、課が果たすべき役割	・住民、事業者、行政が環境問題に対する同じ認識を持ち、環境への負荷の軽減を図るため、各種情報提供や啓発活動を積極的に実施することで、栄町の恵まれた自然環境や良好な生活環境を将来にわたり引き継いでいけるよう取り組んでいかなければならない。				

3. 課の経営方針

課の経営方針 (平成22年度)	・栄町は豊かな自然環境に恵まれ、町民の多くは現状の環境に満足していることから、その良好な環境を維持していく必要があります。そのためには、行政、住民、事業者が相互に協力し、環境に配慮した行動への取組みにより、栄町に暮らしているすべての人が健全で良好な環境の恵みを受取り、安心して暮らせる社会を構築していくことです。特に、廃棄物の排出抑制や資源化については、地球温暖化の抑制にも密接な関係があり、家庭や事業所等で取組める身近な手段であることの理解と行動が取れるよう、啓発並びに学習の機会を提供していきます。
--------------------	--

4. 施策の優先度

班 名	施 策 名	特性分類	成果の 方向性	資源投入の方向性			優先度
				事業費	人員	地域資源	
資源班	廃棄物の適正処理	B	↑	↑	→	→	A
保全班	環境の保全	A	↑	↑	→	→	A
保全班	食品衛生の向上	A	→	→	→	→	B
保全班	衛生環境の向上	B	↑	→	→	→	B
保全班	その他環境・衛生向上	A	→	→	→	→	C

5. 平成21年度の課の経営方針及び取り組み結果

N0	平成21年度取り組み	平成21年度取り組み結果
1	栄町は自然環境に恵まれており、町民の多くは現状の環境に満足していることから、環境の保全を図っていくためには、行政のみならず、住民、事業者が相互に協力していくことが重要であり、環境に配慮した行動に取り組むことによって、栄町に暮らしているすべての人が健全で良好な環境の恵みを受けられ、安心して暮らせる社会を構築していくことです。特に、廃棄物の排出抑制や資源化については、地球温暖化の抑制に密接な関係があり、家庭や事業所で取組める身近な手段であることの理解と行動が取れるように、啓発並びに学習の機会を提供していきます。栄町斎場の老朽化に伴い、今後の改築更新及びセレモニーホール等の附帯設備を含めた事業費を需要予測(100件/年)から検討すると非常に効率が悪いことから、施設を廃止し、近隣施設の利用に対する補助制度に転換していきます。	一般廃棄物に含まれる資源物の分析を実施し、広報などに啓発し資源化促進に努めました。また、斎場を廃止したことにより、近隣斎場施設の利用に対する火葬助成金(補助制度)を開始しました。